

きのこリウム

樋口 和智

きのこリウムとは

“きのこリウム”はキノコをガラス容器内で育てるテラリウムであり、アート作品でもあります。キノコをレイアウト素材の一つと捉え、小さなガラス容器の中に自然を再現する、というコンセプトで作品づくりをしています。

キノコが生えている期間はとても短く、1~2週間ほど。出来上がった情景はとてもはかないものですが、キノコが創り出す造形はとても美しく、神秘的で、人を惹き付けるものがあります。

キノコの部分は子実体と呼ばれ、植物で言う花のようなものです。子実体が枯れてしまっても本体の菌糸体が死んでしまうわけではありません。菌糸体が生きている限り、キノコは複数回出てきます。実際、私の作品においても1年に2~3回のキノコが発生します。キノコや苔を育て、景色をデザインし、小さなガラス容器の中に自然の一部を切り取ったかのような景色が出来上がった時は感動もひとしお。

育てる楽しみ、創り出す楽しみ、両方を味わいながら日々作品づくりに勤しんでいます。



生きている状態のキノコを『魅せる』

2018年1月よりイベントなどに出展し、きのこリウムの展示会を行っています。

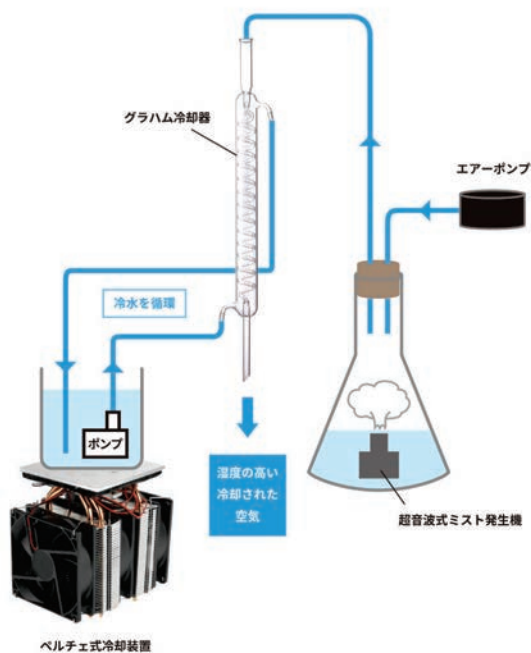
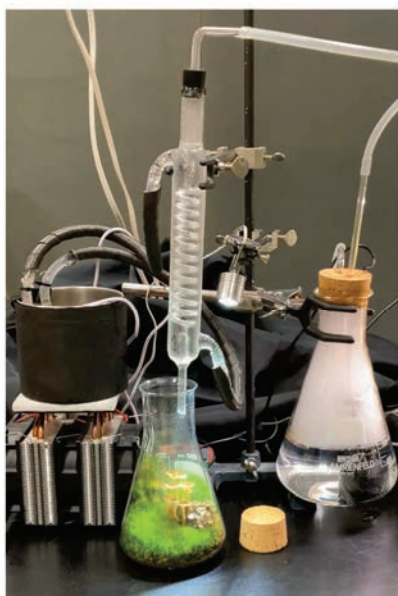
エノキタケ、ナメコ、白ヒラタケ、ヌメリスギタケなど、栽培目的で市販されている品種を利用し、会期に合わせて子実体を発生させ、生きた状態のキノコを展示しています。観覧者は本物のキノコであることに驚き、エノキタケなどについてはスーパーで売っている状態のものとはずいぶん違った見た目に驚かれます。



作品を冷やして長持ちさせる

きのこリウムで使用しているキノコは晩秋～冬にかけて生えるきのこばかりです。

そのため、気温が高いと急に成長が早くなり形が崩れてしまったり、キノコが黒く変色してしまったりします。イベント会場では気温が高い場合が多いため、キノコを冷やすことで、できるだけ作品をきれいに長持ちさせる努力をしています。



考察

現在、上記の作品を冷やす方法で、外気温より5 程度低い空気を送り込むことができています。イベントの期間が2～3日であればこの方法で作品を保たせることができていますが、理想は1週間程度は保たせたいところです。冷却効率を上げ、外気温より10 以上は下げられるように試行錯誤していきたいと思います。